



生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちよつと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

その他

三日月の欠けたるごとに見通せぬ虫の知らせの無体なるかな

投稿日：2014.12.28 ニックネーム：hon no mushi

今年最後のお便りとなりましょうか、誠に勝手ですが、他愛ない想いが浮かんできまして…

副題は『骸骨にいさんと幽霊ねえさん』で
絵本みたいな話ですが、こんなふたりの会話が流れてきたのです…

ユ：にいさん、また出てきちゃったわね、相変わらずガイコツね
ガ：お前だっていつも足、無いじゃん！
ユ：それを言っちゃ～おしまいよ。ところで、また、よさそうな骨が見つかったの？
ガ：ああ、こっちも何ヶ所かボロボロになってきちゃったから…とっかえなきゃね
ユ：にいさんはいいわよね、自分の骨じゃなくても、まして人間のものじゃなくたっていいんだから…
ガ：お前みたいに他人の見るもの、聞くもの、しゃべるもの…に自分の微波長をひそませて顕現させるのと違うからな…ハード面だけで済むんだよ。でも、お前のように、意識全体を覆うようにとりつくソフトの力は羨ましいな…現に、この憐れなホンのムシさんに自分以上の声を上乘せして自分のもののように思わせてるし…
ユ：でも、にいさんは本物の虫みたいになれるじゃない。その、からだをバラバラに壊して、材料の配合を変え、カタツムリの殻みたいに外枠を作ってゆく力…蝶みたいにもなれるし…
ガ：う～ん、なんと言っていていいか…遺伝子のクセみたいなものだよな。骨で成り立っているやつは、生まれた時から一本の時間軸で通し、似通った部分なら代替はきく。虫は幼虫期なら幼虫期の代替しかできないんだ…展開する局面次第ね…
ユ：でも、このムシさんは気付いているみたいよ、私たちが全く外部の者なのではなくて、必ず生身の者がいなくてはならず、そのまわりに派生する揺らぎみたいなものだってこと…
ガ：…のようだね。三位一体ってこと…そして自分ひとりだけでは化ける（変わる）力がないってこと…

その他

冬の暗い夜の歌

投稿日：2014.12.22 ニックネーム：hon no mushi

なんだか訳の分からない投稿になってしまいそうですが、昨日簡単に庭の掃除をして、霜で葉が枯れた皇帝ダリアやらコスモスやら芙蓉庭菊紫蘭シオンを片付けて一息…ついたのか、久し振りに気が抜けて窓の所を先程ふと見ると…意外なものが目に入り…そこから想い出だしたことを昨晚見た夢を交え、不定形詩を作ってみました…僭越ですがあくまでご参考に…

昨日は何もしなかった日曜日 ガラス戸に咲いたうどんげの花
再生のため一時眠りつく うつりゆく冬の時間月無き夜
再度夢にて行き着いた 低地の道は水没し

新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

途切れて目指す山路奥の院 広い谷間に石組みの橋
それにつらねる構えの洋館 鍵も管理も任されて
足音忍ばる客間の廊下 二百はあろうひとけ無い部屋
どこよりか陰気な地下の湿り気が 漏れ出ていつこかぎ分ける
めしよりと湿った石組みの 光射さない地下通路
気鬱な長い夜 悪寒はやまず不安は募る
それと裏腹 壊れた配置呼び戻す予感
キリコの絵の影 プダベストの暗がりを
吹き抜けてくる夢見人への誘いみち

…以上です…

その他

オノマトペの世界

投稿日：2014.12.20 名前：岡野桂子

宮沢賢治さんの童話の中のオノマトペ、不思議な心地にさせられて気になっていました。”ものの言い方西東”という本を読んで、東北の人々は豊かなオノマトペと感動詞を生み出してきたと知りました。擬声語‘何かが発する音や声を人の声でマネたもの’に合わせ、擬態語を‘モノや情態の音なき声を人の声で表したもの’だと思いますと、オノマトペの世界ではモノや情景が音を出すもの出さないものいろんなものが声を発して語りかけてくる、そんな世界に思えてきました。宮沢賢治さんには周りの自然のあらゆるものが、生きものだけではなく山も星も風も雪も電信柱までが語りかけ、そして彼はその声を聞くことができた。自然と語り合う中で絵画のような音楽のような作品が生まれてくる。自然の発する声、何を語っているのか聞き取るには相手のことを知らなくてはなりません。よく見る。時には客観的分析的な目。目と耳が折り重なって対話が続く。見つめ見守り語り語りかけ語り合う。愛づるにつながるでしょうか。時を忘れて愛づる。愛づるを深めていくにはたくさんの時間が必要です。せめて子供たちだけでも愛づるときを過ごしてもらいたい。とりとめもなく。季刊誌、そして今年一年ありがとうございました。

お返事

投稿日：2014.12.22 名前：中村桂子館長

こちらこそありがとうございました。
「宮沢賢治のオノマトペ集」という本が出ましたね。本棚に置いてありまだ読んでいませんが、独特の音があり面白そうです。

その他

山風とも海風とも知れぬ空のぬし雪袖振り地を染めぬかん

投稿日：2014.12.17 ニックネーム：hon no mushi

…キアゲハはどこかに隠れてしまいました…
昨日は冷たい雨で、その前日の昼間、三つ葉から離れようとしたところを強引に引き戻しても尚離れていくので、蛹になって越冬するのかなと思いました…
くどくなりますが、政治の世界の小淵さんも、もうちょっと脱皮をして耐えていると、ドイツのメルケルさんみたいになれるかも…そんな機会があるかもしれません…
そして、この時期急速に発達する爆弾低気圧が北海道にまたもや…生命誌研究館の皆様のご健闘をお祈りします…

お返事

投稿日：2014.12.18 名前：中村桂子館長

まさにグルグル巻きの低気圧のいる北海道で”ゴーシュ”を演ってきました。テレビで見ていると豪雪と暴風の中となるのですが、実は、札幌はお日様も照っていて大勢の方が来て下さいました。もっとも往復の飛行機については、ヒヤヒヤでしたけど。報道されることと現場にいる者の実感の差を体験しました。



中村桂子の「ちょっと一言」

今年も終わりですね・・・

投稿日：2014.12.16 ニックネーム：teru

何もできなかった感じの一年・・・ボランティアには成果と評価も自分にかかっています。真面目に取り組んで来たか・・・評価を意識したか・・・研究者はゼロ・1か・・・大変とおもいます。現役の時にボーナス査定をするとき一番苦しみました。動物の世界ははっきりしてますね。

「ちょっと一言」を読みながら中村先生は冷静に物事を見ておられます。時々ファイルを開いて読み直しもしております。山極先生はコンタクトされたのでしょうか・・・事件もありバタバタされているかもしれませんね・・・

皆さん良いお年をお迎えくださいね。

お返事

投稿日：2014.12.18 名前：中村桂子館長

山極さんは大変なお役目を引き受けられましたが、学問のことは忘れていらっしゃるらないので、そのお話はこれからもと思っています。楽しみになさってください。



季刊「生命誌」

3つの対話に漂う凛とした空気と危機感

投稿日：2014.12.16 名前：杉山昭夫

生命誌83号のTALKを読ませていただきました。写真に写っている顔の表情はどれも穏やかですが、語っている言葉一つ一つは非常に厳しく重いものです。和やかな対話の行間から伝わる強い危機感。特に印象に残ったのは、「震災直後は多くの方がそれ（人間は生きものであり、自然の一部である）を考えてくださいましたが、3年経つと忘れられてもとに戻ってしまった気がします。」（中村）、「経済一辺倒で動いているために、他の感覚や価値観が麻痺して、人間が壊れるんじゃないか」（伊東）。全く同感です。自分の中でも少しずつ不安感が大きくなっていて、なかなか希望の光を見いだせません。末盛先生のお話も直接伺ったことがあります。自分の価値観を大事にし、人への思いやりが深く、こうと思ったら行動し続ける信念の人という印象を持っています。今回TALKされた3人に限らず、中村先生の対話される相手は、様々な分野で一流の活躍をされつつ、震災前から、あるいは震災を大きな契機として今の人間社会のあり方について強い危機感を抱いている方々のように思います。「科学が明らかにした生きものの知識を使って、自然の中でどう上手く生きるかを考える文明を作りたい」（中村）という生命誌の考えをベースにこれからもネットワークを広げていかれることを心から期待しています。来年は、完成予定の映画を教育の場や大学など、若者が集まる多くの場所や東北で公開してください。公開のためにお手伝いできることがあれば喜んでやらせていただきます。この一年、生命誌研究館および中村先生の発信から多くのことを考えることができました。ありがとうございました。

お返事

投稿日：2014.12.18 名前：中村桂子館長

3人の方のすばらしさを改めて思い出す御指摘ありがとうございます。社会全体の動きはとんでもないものになっていて辛いですが、すばらしい方達はたくさんいらっしゃるの、その力に望みを託しています。



中村桂子の「ちょっと一言」

農林水産と製鉄を半年づつ

投稿日：2014.12.16 ニックネーム：弥勒魁

沢史生（さわ・しせい）という1926年茨城県水戸市生まれの歴史作家が著書に書いていたことですが、源頼朝が富士川で平家を打ち破り幕府を構えさせねばならなくなったとき、新都鎌倉を建設したのは伊豆の海山の民だったそうです。

山の民は夏の間は狩猟採取農耕に従事、冬の間は製鉄に従事、海の民は夏の

間漁労と交易に従事、冬はやはり製鉄、農林水産資源を保全しつつ良質の鉄も得ていたらしい。両方とも半年づつしかやらないところがミソなのです。

この考え方は、現代にも活かせるのではないのでしょうか。ちなみに、うちの先祖はこの取りまとめをし、ゼネコン稲村組が築いた新都防護壁だから「稲村ヶ崎」というのではないかと私は思っています。

お返事

投稿日：2014.12.16 名前：中村桂子館長

農林水産と製鉄とは。生活の基本の基本を生きているということで羨ましい生活です。おっしゃる通り、今もこのような考え方で生きると地に足がつくのでしょうか。

その他

「無知の知」を知る

投稿日：2014.12.16 名前：石橋教行

私の親の世代、あるいは先生の世代のかたがたが鬼籍に入られたという報を耳にするたびに、失っていくものの大きさに心が痛みます。その中のお一人が水谷静夫さんで、その著書、岩波新書『曲り角の日本語』に日本語の現在と将来をめぐる貴重な提言が記されてありました。失っていくものに代わって、形は違っても、いずれ、価値のあるものを生み出すことができる人が現れてくるのが世の常です。しかし、言語をめぐる変化にあっては、取り返しがつかないところまで落ちて来ているのではないかと。戦後教育のもとで育った我々世代の情けない姿は、目も当てられない惨状にあります。古典が読めない、読んだこともない、漢文も読めない、読んだこともない、にもかかわらず、名著の名前と年月日だけは覚えていて、知っているつもりになっている、だから、読み、書き、理解のあらゆる面で薄っぺらになり、まともな日本語が使うことができない。

「無知の知」などという偉そうな言葉を使うと、なにか恰好づけをしているように聞こえますが、本当に自分たちが何にも知らず、努力もしないで生きてきたことに、そろそろ気がついていいのではないかと、思うのです。いや、それはお前だけのことで、世の中にはちゃんとまともな文章が書ける人がいる、と一体何人の人が言えるか、少なくとも自分は問題ないと胸を張って言える人がいるか、と、こう問うただけで答えが帰ってくると思います。

私がこんな考えにとりつかれたのは90年代からです。この10年は現代作家の本を買うのをやめました。仕事にしている言語関係の本は、面白いと思うのは70代まで、それより若い人の書いたものは、もうだめです。それで、言いたいこと。そろそろ、自分たちが何も知らないことに気がついていいのではないかと、そこからできることを考えよう、もう、遅すぎるかもしれないけれど。

お返事

投稿日：2014.12.16 名前：中村桂子館長

年を取ると昔をなつかしむようになるのかもしれませんが、それを抜きにしても私の先生方はすばらしかった、そういう方がいなくなったと思う気持は強いです。嘆いていても始まらないので、身近の人に言葉の大切さを伝えることはして行こうと思っています。

その他

今日こそはいのち果てむか霜枯れの葉むらに際立つ碧(あお)・黒・赤・黄

投稿日：2014.12.15 ニックネーム：hon no mushi

…今朝もまだキアゲハの幼虫は生きていました…そこでまた一首…

…そして選挙も終わって…今回は大義なき空虚な選挙で、消費税増税を先送りし、野党の体制が整わないまま首相独断で解散してしまったので（果たしてそんなことをしてもいいのか？と疑問を抱き）…与党の圧勝は目に見えて判っていたので、小泉さんの時と同様、棄権して音無しく（おとなしく）していました…ふと感じたことは…元大臣の松島さんは馬力のある、政治的におとなの人なので、当選は問題ないと思ったのですが、もう一方の元大臣、小淵さんはまだまだタマゴ…でも今後、大化けに化けてくれるのを期待されているのかな、と思いました…

お返事

投稿日：2014.12.16 名前：中村桂子館長

私も同じように空しさを感じる選挙でしたが、でも投票に行きました。最悪を避けるためにすることはしようと思って。これで、ゴウマンそのものの政治になるのかと思うと滅入りますが。

季刊「生命誌」

.....やまとのまほろば間借りして真冬のキアゲハみつば食むはむ

投稿日：2014.12.13 ニックネーム：hon no mushi

BRHカード、本日届きました。こちらから迷惑をおかけし続けていたので有難い限りです。…ところで、一週間くらい前に、家の脇でキアゲハの幼虫がミツバの葉をもしゃもしゃ食べ進んでいるのを見かけ、こんな季節なのにこんなに大きくなって…大丈夫なんだろうか、とかなり気を遣ってしまいました。…その後、巨大霜柱が立つ日が何日もあったのですが、今朝も同じ所にいて動きは鈍くなりながらも、触ると反応が返ってきました。

…今回のBRHカードをバツと開いてみて紹介されていた、人生で一番大事なものの、「!」「?」がいっぺんに訪れた感じです…
そして、新宮さんと末盛さんのお話に触発されたのですが…最近、私は「やまと」は昔、「山戸」だったのではないかと、「まほろば」は「真洞場」だったのではないかと勝手に想像するようになっていて…つまり、山国の洞穴に居住していた一部族の名残があったのではないかと考えるようになっていて、タイトルのような歌を作ってみました…最初の上の句五文字はみなさん考えてください…悪しからず…

(追伸) …「おや?」「おや!」とかけて、「親追いつ」「親老いつ」がよろしいかも…



中村桂子の「ちょっと一言」

生きもの時間と生体較差

投稿日：2014.12.07 ニックネーム：hon no mushi

一人で勝手に投稿を続け申し訳ありません
…忍者の話は何回か挙げましたが、元は英語で適当な日本語に訳されているのでカタカナ表記が多く、例えばオーという字の元の綴りは-au-なのか-al-なのか-ou-?-or…と一々調べなくてはならないのが大変で…ある程度は対応しているけど、元の綴りの方が音的には多様で一対一対応していない(日本語は漢字で視覚的に多様)…そこから気付いたのですが、カタカナ語から元の綴り配列に戻って調べるのが困難のように、生き物達もDNAからポリペプチドまで作るのが自然の流れで(もし変な蛋白質ができてしまっても、他の見廻り蛋白質がチェックして不適ならできるそばから壊し続ける)、兎に角作って作って生み出し続けることに何の疑問も持たない性善説的システム、ただそれが何かのきっかけで悪い方向に向かったら、その元になるDNAを有する細胞、組織、器官…個体を、機能不全が波及しないように自爆するようにする…
…生き物は生まれながらにしてこの仕組み、とにかく、DNAを信じて蛋白質まで至るベクトル、不可逆性を省みないでも生き残れる仕組みを持っている…そしてこれが生きてる者達のそれぞれ抛り所になっている時間単位では…以前挙げた『シンク』という数学的カオスの世界を描いた本に、校舎にある水道の蛇口をどこか開けたり閉めたりすると、他の蛇口をひねってないのにポタリポタリと滴がこぼれたりする、というのがありましたが、その、それぞれの蛇口から水が全体の中で調節されながら出る行為が、色々な遺伝子に因ってそこで作られるというベクトル作用に当たる…
…それはまるで…多様な生き物(その構成要素を含め)皆が舞台に並んで立っていて、仲間がナラクからせり出してくる、その登場の過程をその場の皆は持っており、それにかかる時間はそれぞれで較差はあるけれど、それが共演に彩りを添えるということ…



中村桂子の「ちょっと一言」

自然と調和した開発の歴史を明らかに

紀元前4世紀頃関東平野の南半分は海だったそうですね。それを周辺から干拓しながら大規模水田稲作を広めていった人々が居たらしい。この事業は2千年後の1600年に家康が江戸入りした時点で、いまだ完成しておらず、彼の江戸入りの目的はその完成であったようです。

その開発の仕方も富山和子「日本の米」中公新書1156 1993.10.25. 刊行が明らかにしているように自然と調和した見事なものだったらしい。

しかるに、この話は一寸も学校で教えられていない。科学的な歴史が教えられなければ国土を護ろうという気が起きないのは当然です。

今の自由至上主義経済には、国土の保全という概念はありませんね。これを組み入れることは大変な難事のように、まだ成功した人はいないようですが、ぜひとも成功させないと人類は滅ぶでしょうね。

お返事

投稿日：2014.12.08 名前：中村桂子館長

開発はDevelopment。実は生物学でDevelopmentと言えば「発生」、つまり受精卵から個体ができ上がる過程です。カエルの卵ならカエル（まずオタマジャクシですね）、スズメの卵ならスズメ、ヒトの卵ならヒトと、卵の中に隠されていた可能性を実現するのが発生、Developmentなのです。カエルの卵からはどうやってもスズメは生まれません。

つまり開発は、その土地に隠されている可能性を実現するものであるはずで、それにはまずそれぞれの土地をよく知ることから始めなければなりません。それをすればその土地らしい開発はできるはずで、どこでも一樣にして自然を壊すことが開発ではないというところから出発する必要がありますね。

その他

今回の選挙による権力の承継があまりに軽く感じられてしまうこと

投稿日：2014.12.01 ニックネーム：hon no mushi

いよいよ冬本番ですが、先に述べた土の香りする表面に発生した黒い芋虫は、掃除のまにまに三百を軽く超えました…ところで（呆れてお口をあぐりとされるかもしれませんが）昨夜かなり強烈に（どちらの世界が本当かわからないくらいの）鮮明な夢を見てしまいました…それが今回投稿の原点なのですが…片方が山肌、片方が谷底といった溪谷鉄道で始発駅から終点まで行くのですが、明かりと言っても目に見えるあかりではなく、音と言っても耳に聞こえる音ではない、でも乗客達が動いているのは明確に感じられる、ホワツとした雰囲気の夢で…

今日を通して『後宮のすべて』という本に、一籌を輸すという言葉が出てきてちゅうの他にゆすを辞書で調べたら、中身をすっかり取り出して他に車でうつすとありましたが（秋好中宮や弘徽殿女御のくだりなのですが、私は漢文も古語もダメ、源氏物語は…敬語が神殿を支える列柱のように聳え立っていて、その柱の陰から中の出入りをうかがうくらいの忍者のようにしかできません）、先の忍びの話もキョートに移ってから登場するのが人間の能力を越えた生き物じみてきて、生物時間を自在に操り一生消費するカロリーをぐっと一瞬に縮めたり、火の輪くぐりをしたり、一部動物化したりと、色々なものが時間軸を調整しながらうつつって他の話の流れ込んでいって（それは六条御息所の霊が紫の上のりうつつって同調するような行動を起こさせたのと似ているのでしょうか）、人間以外を包括した何かを目指しているような感じ…

あと、読み終えた手塚治虫さんの『奇子』も、権力争いが投影された一家の物語で…東北が舞台に…

どうも話が脇道にそれてしまって申し訳ないです…